しずくの桜

身延山の日蓮の住居跡、御草庵跡近くにある「しずくの桜」は、樹齢約 700 年と推定され、山梨県で最も古い桜の一つです。

この古木にまつわるエピソードをご紹介します。

御草庵は、日蓮が身延山で 8 年間の大半を過ごした小屋です。ここで食事をし、眠り、貴重な作品を書きました。また、弟子たちを指導し、説法をした場所でもあります。御草庵の近く、下山郷という村に因幡房という人が住んでいました。因幡房は日蓮とその弟子たちの話を聞き、毎晩のように御草庵に行って日蓮の教えを聞いていました。因幡房は日蓮の家の近くの桜の木の陰に隠れて説法を聞いていたという伝説があります。

因幡房は夜遅くまで説法を聞いていたようで、桜の木の夜露が服に落ちるほど遅くまで聞いていたそうです。雫の桜の木は、このようにして名づけられ、因幡房はやがて日蓮の最も身近な弟子となりました。また、この木の近くには日蓮聖人の遺灰の一部が納められている御廟所があります。身延山では、しずくの桜や久遠寺の樹齢 400 年のしだれ桜が見所です。